

## 当院研修医の救急搬送帰路上の途中降車について

このたびは、当院の救急車利用に関する対応が報道各社にて報道されたことにより、地域住民の皆様はじめ関係各所の皆さまには多大なご心配とご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。

報道された内容につきまして、院内にて事実確認を行ったところ、12月16日18時40分ごろ、当院研修医が愛知医科大学病院への患者の救急搬送に同乗し、搬送終了後、救急車で帰還途中に搬送先病院の最寄り駅である地下鉄藤が丘駅で下車した事実が確認されました。

当人としては、あくまで帰還の経路上での降車であり、私的な救急車利用といった認識は持っていませんでした。

報道では、降車場所として名古屋駅や伏見駅を指定し打診したとありますが、当人としては当初から帰路上の地下鉄東山線沿線の駅での降車を打診したものであり、帰路車中の救急隊員との会話の中で、今からの行き先を尋ねられたことに対し「伏見」と答えたものです。救急隊に要求したという認識はなく、救急活動に支障のない範囲での対応を打診し、救急隊と合意のうえでの行動であったとの認識です。

しかしながら、搬送帰路途上の最寄り駅で途中下車したことは事実であり、当院としては、私的な目的での利用にあたる行動であったと認識しており、このことは深く反省すべきと思っております。

今回の件につきましては、救急隊の好意に甘えた不適切な行動であり、病院として深くお詫びするとともに、今後このようなことが起きないように職員教育を徹底してまいります。

どうぞご理解賜りますようお願い申し上げます。

令和4年12月22日

江南厚生病院 病院長 河野 彰夫